

福島復興に向けた未来志向の環境施策推進に関する連携協力協定

フォローアップ会議

日時：令和4年5月25日（水）

15時30分～

場所：福島県庁 第1特別委員会室

次 第

1 あいさつ

2 令和3年度及び令和4年度の取組説明

- ・「ふくしまグリーン復興構想」等の着実な推進
- ・復興と共に進める地球温暖化対策の推進
- ・ポスト・コロナ社会を先取りした環境施策の推進
- ・本協定の効果的な実施に関する共通的事項

3 意見交換

4 閉会

≪連携協力の概要≫

- 関係自治体・団体等による推進体制の整備
- 国立公園・国定公園の魅力向上、只見柳津県立自然公園の国定公園編入、広域周遊の仕組みづくり等の取組の推進
- 猪苗代湖の環境保全、野生鳥獣の保護管理等、県内の環境保全の取組の推進

≪令和3年度の主な取組状況≫

- 尾瀬沼ビジターセンターリニューアルオープン
- 国立公園満喫プロジェクトの実施
 - ・磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会を設立し、協議会を2回、4つの部会を計10回開催。
 - ・ステップアッププログラムを策定
- 只見柳津県立自然公園を越後三山只見国定公園に編入
- 国立環境研究所と県とで猪苗代湖の湖内水質予測モデルに関する研究に加えて、水生植物を利用した水質浄化施設に関する研究を共同で実施
- 帰還困難区域におけるイノシシ等の捕獲（計1,787頭を捕獲）

●尾瀬国立公園の魅力向上

尾瀬沼ビジターセンターについて、展示内容のリニューアル等を実施。



●広域周遊の仕組みづくり

猪苗代湖や磐梯山などの5つのサイクリングコースを活用したイベントやツアーの開催



令和4年度の主な取組予定

- ふくしまグリーン復興推進協議会総会等を共同で開催予定
 - ・各ワーキンググループを開催し、情報共有及び連携強化
- 磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会・部会の開催
- ふくしまグリーン復興プロモーション、国定公園ビジターセンター整備、公園の利用促進のためのイベント等の実施
- 国立環境研究所と県とで猪苗代湖の湖内水質予測モデルに関する研究と水生植物を利用した水質浄化施設に関する研究を共同で実施
- 帰還困難区域を含む野生鳥獣対策の継続実施 等

今後の方向性

- ふくしまグリーン復興推進協議会等を活用し、自治体、民間事業者など地域の関係者との連携強化を進め、同構想を推進
- 国立公園満喫プロジェクトにおける効果的な魅力向上策等の検討

≪連携協力の概要≫

- 県内における省エネルギー対策や再生可能エネルギーの一層の普及促進
- 福島県産水素の利活用
- 上記の取組を通じた未来志向のまちづくりなど地球温暖化対策に実効ある取組の推進

≪令和3年度の主な取組状況≫

- 「脱炭素×復興まちづくり」に係るFS事業を5件実施
- 再エネ等設備導入計画策定を2件採択
(自治体1件、民間1件)
- 再エネ設備・システム導入補助事業を10件採択
(自治体2件、民間8件)
- 「最適運用管理システムを活用した低コスト再エネ水素サプライチェーン構築・実証」を継続実施
- ゼロカーボンシティ宣言を行った浜通り自治体への技術的支援の継続実施
- 脱炭素×復興まちづくりプラットフォームの設立準備等

●令和3年度に実施したFS事業の例

浜通り地域における水素供給モデル調査

対象地域：福島県浜通り地域

事業概要：多様なFCモビリティの導入ポテンシャルを把握して、簡易型水素充填車による安価な水素供給モデル実装に向けた調査。



共有モデルイメージ

●計画・設備導入補助の例

対象地域：檜葉町

事業概要：ならばスカイアリーナへの太陽光発電、蓄電設備導入に向けた基本設計等



ならばスカイアリーナ

対象地域：大熊町

事業概要：大熊町役場庁舎に太陽光発電システムの導入



大熊町役場

令和4年度の主な取組予定

- FS事業の公募・採択を行い、新たな調査を実施
- 自家消費型発電設備の導入支援の実施
- 県事業としての「導入可能性調査」事業の実施
- 水素ステーション整備拡大事業の実施
- 脱炭素×復興まちづくりプラットフォームの設立
- ゼロカーボン宣言を行った自治体への技術的支援の実施
- 福島県2050年カーボンニュートラルロードマップに係る研修会の開催 等

今後の方向性

- 「脱炭素×復興まちづくり」プラットフォームの場や設備導入支援、FS調査などを有効に活用しながら、再生可能エネルギーの導入促進や水素社会の実現、省エネルギー推進などによる、脱炭素先進モデルケースの形成を一層推進

≪連携協力の概要≫

自立・分散・ネットワーク型の社会の形成を視野に入れ、幅広い分野の環境施策において、多様な主体との連携を強化し、レジリエント（強靱）な社会のモデルとなる取組を推進

- ・ 国立公園等におけるワーケーションの促進
- ・ 復興に貢献する再生可能エネルギーの地産地消等の推進
- ・ 廃棄物の発生抑制や循環的な利用に関する取組、災害にも強い資源循環スキームの整備促進

≪令和3年度の主な取組状況≫

- 国立公園内ワーケーション事業への支援
- ワーケーション向け滞在ツアー造成のためのモニターツアーを3回、ワークショップを3回実施
- 福島県産再エネ電力拡大事業の実施に向けた関係機関との調整
- 事業のプロモーション、環境省施設での福島県産再エネの調達
- 「福島県環境アプリ」の制作・プロモーション
- 令和3年度ドギーバック（持ち帰り容器）デザインコンテスト
- ごみ減量・リサイクル対策事業の効果分析（国立環境研究所）
- 廃棄物削減モデル事業の実施

●ワーケーション事業への支援

磐梯朝日国立公園におけるワーケーション事業を支援。WiFi等の環境整備、アクティビティ開発、モデルツアー等を実施。



●「福島県環境アプリ」の制作・プロモーション

ごみの減量化や省エネルギーなどの取組を促すアプリを制作。プロモーションを実施。



令和4年度の主な取組予定

- 国立・国定公園におけるワーケーションの推進
- 福島県産再エネ電力拡大事業の実施
- 事業のプロモーション、環境省施設での福島県産再エネ電力調達の継続
- 廃棄物削減モデル事業の実施 等

今後の方向性

- 国立・国定公園におけるワーケーションの普及促進に取り組み、「ワーケーションの聖地ふくしま」を目指す
- 多様な主体による再エネの導入・利用促進など、ポスト・コロナ社会を先取りした自立・分散・ネットワーク型の社会の形成に向けた具体的な施策を幅広い分野で推進

≪連携協力の概要≫

- 広く県民や企業、市町村等の積極的な参画を促すため、シンポジウム等の開催や優良な取組の推奨制度の創設など多くの主体の参加を促進・誘導するための取組を行う
- 福島の復興の姿を広く県内外に発信するなど、浜通り地域をはじめ福島県の風評払拭に努める

≪令和3年度の主な取組状況≫

- シンポジウムを3回、連続環境勉強会を2回開催
 - ・ 11/ 5 ふくしまグリーン復興推進シンポジウム
 - ・ 11/18 連続環境勉強会（第1回）
「カーボンニュートラルの最新動向と福島県の取組について」
 - ・ 12/ 3 「福島再生・未来志向プロジェクト」シンポジウム
 - ・ 1/28 連続環境勉強会（第2回）
「福島県内におけるZEB化推進に向けた取組について」
 - ・ 3/12 「福島、その先の環境へ。」シンポジウム
- 学生向けのチャレンジ・アワードを実施
- 環境リブランディング・公募型キャンペーン「FUKUSHIMA NEXT」の実施
- COP26ジャパン・パビリオンにおける福島県の復興に関する情報発信

●「福島、その先の環境へ。」シンポジウム

福島の復興・再生の取組を振り返るとともに、県内外の方々と福島の未来について共に考えるシンポジウムを開催。



●COP26ジャパン・パビリオンでの福島に関する展示

英国グラスゴーで開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）において、福島第一原発事故からの復興と脱炭素先進地域を目指す福島の取組を世界に発信することを目的にセミナーとブース出展を実施。



令和4年度の主な取組予定

- シンポジウム（3月予定）等を開催予定
- チャレンジ・アワードを継続して実施
- 「FUKUSHIMA NEXT」の広告の実施
- 福島復興に関する海外向け情報発信
- 環境イベント（仮称）を開催予定 等

今後の方向性

- 福島の風評払拭につなげる、環境先進地域へのリブランディングを推進
- 震災・原発事故や環境再生の記憶を福島の子どもたちへと継承する取組を推進
- シンポジウム等の情報発信を通じて、多くの主体の参画を促進